

「道を空けよう、それが規則だ」

警察はドライバーに、緊急車両

に道を譲るよう呼びかけている。

7月18日(木)、トロント市警は、OPP(州警察)、TEMS(市救急隊)、TFS(市消防局)、MTO(州運輸省)と協力して、車を運転する人の義務として、非常装備を作動させている全ての緊急車両に道を譲ることが州条例で決められているという、4公共サービス部局共同の通達を発表した。

「道を空けよう、それが規則だ」と呼びかけるこの運動は、緊急車両に道を譲り、自動車道の路肩にいる緊急車両に接近しないことが、倫理と共に順法上の義務であることをドライバーに教育するために進められる。

この通達が発表されて数時間後、市警の警官がドン・バレー・パークウェイで、車に衝突されるのを避けようとして負傷した。

この警官は、巡邏のための車に戻る際、路肩に隣接した車線を進行してくる車に気付いた。

進行してきた車のドライバーは、速度を落としたり、隣の車線へ移動したりはしなかった。

緊急派遣要員が出動要請のある所へ、安全に、遅れることなく向かうことができることは、公共安全を司る者にとって、基本的な優先事項である。

車のドライバーが緊急車両に出会った場合、法規は以下を定めている。

－ 交差点を出て、道路の縁石または端近くまで、右側へ車体を寄せて停車する(緊急車両が、自分とは反対の方向へ向かって走行している場合も同様)。

－ 一方通行道路では、交差点を出て、車を一番近くの縁石または道端に寄せて停車する。

ドライバーが、停車している緊急車両に出あった場合には法律上、以下が義務である。

－ 速度を落とし、注意深く進行する。

－ 他に車線がある場合は、停止している緊急車両から離れた車線へ移動し、注意深く進行する。

トロント市警は住民の皆さんに、市内の道路またはその周辺を走行中には、注意深く運転することを求める。

緊急車両は、道路交通法により、赤信号を通過することが例外的に許されている。もし進行方向が青信号なのに、交通が停滞しているようならば、停滞している理由を探すことを考えるべきだ。何らかの理由による(訳者注、緊急車両の)遅延で、生死の境を分かれるかもしれないのだ。

JSS 説明

08年1月上旬に続けて3件の緊急活動中の緊急車両と通過車ないしは無謀運転中の車の事故で負傷者が出、車両が大破するなどの事故が起き、州警察は覆面車両の増発などで取り締まり強化を進めた。強化された取締りの結果は特に発表されていないが、その後も同様の事故は数多く起きている。街を運転していて緊急車両に出会うことは珍しくないが、周囲の車が法規に従った動きをするのをあまり見かけない。いきおい、

緊急車両は混雑を避けてジグザグ運転を余儀なくされ、危険と見えることも少なくな

い。
州条例によると、道を譲らなかった罰金は \$ 150 で、デメリットポイント 3 点、停車中の緊急車両を避けるために右側斜線に移らなかった場合初犯の場合罰金 \$ 400 ~ 2000 とデメリットポイント 3 点、5 年以内の重犯の場合は、\$ 1000 ~ 4000、最長 4 年の収監が定められている。また自転車利用者、歩行者の場合、交差点内にいる場合すぐに出、また交差点に入らないことも定められている。

筆者自身の日本における経験では、緊急車両に道を譲る行動は、当地に比べて比較的良好に守られている印象があるが、当地の場合道路状況にもよるが、緊急車両の交差点通過を待つ場合以外は、道路わきなどによって停車する車はあまり見かけない。妙な言い方だが、これが「常識」かと疑いたくなるほどである。また、車線変更については、右側斜線を走っている車が道を譲らないなど、かなり危険な状況を経験したこともある。

交通法規書にも明記されているし、また、運転するには法規を熟読することが義務であること、この記事でルールが日本と変わらないことを再認識し、法規を再度確認して順法運転を心がけたい。